

7月下旬から8月中旬までの台風に対する農作物等の対策

1 早期水稲

(1) 事前対策

ア 排水路等を整備し、長時間の冠水、滞水防止に努める。

(2) 事後対策

ア 水田や用排水路等の土砂、木切れ等は、できるだけ早く取り除き、収穫に支障がないようにする。

イ 冠水した水田は、速やかに排水する。

ウ 収穫は、倒伏したほ場から行う。

2 普通期水稲

(1) 事前対策

ア できるだけ深水にする。

イ 排水路等を整備し、長時間の冠水、滞水防止に努める。

(2) 事後対策

ア 水田や用排水路等の土砂、木切れ等は、できるだけ早く取り除き、水管理に支障がないようにする。

イ 冠水した水田は、速やかに排水し、新しい用水に入れ替える。

ウ 高潮などで海水が流入した水田は、速やかに排水し、かけ流しをする。

エ 病虫害（ウンカ類、いもち病、白葉枯病）の発生に注意し、必要に応じて防除を行う。

3 さつまいも

(1) 事前対策

ア 排水溝を整備し、滞水防止に努める。

(2) 事後対策

ア 滞水したほ場は、速やかに排水する。

イ 潮風害が懸念される場合、散水施設のあるほ場では、風がおさまり次第、できるだけ速やかに散水を行う。

4 さとうきび

(1) 事前対策

ア 排水溝を整備し、滞水防止に努める。

(2) 事後対策

- ア 滞水したほ場は、速やかに排水する。
- イ 潮風害が懸念される場合、散水施設のあるほ場では、風がおさまり次第、できるだけ速やかに散水を行う。
- ウ 株元が露出したり倒伏した株は、可能であれば引き起こし、必要に応じて追肥や土寄せを行う。

5 大豆

(1) 事前対策

- ア 排水溝を整備し、滞水防止に努める。

(2) 事後対策

- ア 滞水したほ場は、速やかに排水する。
- イ 発芽、生育不良等の被害がひどい場合は、7月下旬までを目途に播き直す。

6 野菜

(1) 事前対策

- ア 強風による被害を最小限に押さえるため、防風垣、防風ネット等の補強を行う。
- イ ほ場での滞水を防ぐため、排水溝の整備を行う。
- ウ つる性のきゅうり、にがうり等は、「つる下げ」を行い、被覆資材等で被覆する。
できない場合は、支柱やネットが倒れないように、しっかりと固定する。
- エ 根深ネギは、土寄せやテープ等を張り、茎葉の折損、倒伏を防ぐ。
- オ さといも(大吉)の早植マルチ栽培で倒伏が懸念される場合は、茎葉を切断する。
- カ 育苗中の苗は、安全な場所に持ち込むか、被覆資材等でトンネル被覆する。
- キ 収穫期に近い野菜は、収穫する。

(2) 事後対策

- ア 台風通過後は、速やかに排水を図る。高温期は、特に長時間滞水しないように注意する。
- イ にがうり、きゅうり等で「つる下げ」を行ったものは、台風通過後、速やかに「つる上げ」を行う。
- ウ 被覆資材等は、直ちに除去する。
- エ 茎葉の折損部からの病害侵入を防ぐため、直ちに薬剤散布を行う。
- オ 草勢の回復を図るため、葉面散布または化成肥料による追肥を行う。
- カ 潮風害が懸念される場合は、速やかに散水し塩分を洗い流す。
- キ 室内に持ち込んだ苗は、速やかに外へ持ち出し広げる。

7 花 き

(1) 事前対策

- ア 作業は、母株→苗→本ぼの優先順位で事前対策をとる。
- イ キク母株は、可能な限り採穂・冷蔵し、残った株を防風ネットやベタ掛け資材で被覆し、しっかり固定する。
- ウ 育苗中の移動可能な苗は、安全な場所に収納する。
- エ 草丈の低いものは、ベタ掛け資材で被覆し、サイドをしっかり固定する。
- オ 収穫直前の切り花は、台風接近の様子を見て、やや硬めでも収穫する。
- カ 鉢物類は、鉢を寄せ、ベタ掛け資材で被覆固定する。草丈の高い大鉢は、一方向に倒す。
- キ 露地のキク等は、支柱を補強（打ち込み直し、本数増加）したり、フラワーネットがずれ落ちないように支柱に固定する。
- ク ほ場内外の資材等の整理を行い、ほ場の滞水を防ぐため、事前に排水溝の整備を行う。
- ケ 潮風害が懸念される場合は、台風通過後、スプリンクラー等で直ちに散水できるように事前の準備を行う。
- コ 露地電照栽培やビニル被覆除去後の施設栽培では、電照用の電球をはずし、作業場など台風被害のない場所に保管する。

(2) 事後対策

- ア 作業は、本ぼ→苗→母株の優先順位で事後対策をとる。
- イ 生育中の花き類で倒伏したものは、風が弱まり次第、直ちに株の立て直しをする。
- ウ 仕立て直しが可能な花き類は、整枝や株の切り戻しを行い、草勢の回復を待つ。
- エ 潮風害が懸念される場合は、速やかに散水し、塩分を洗い流す。
- オ 株に泥が付着している場合は、速やかに水で泥を洗い流す。
- カ 殺菌剤の散布を行い、病害の予防を図る。
- キ 露地のキク等は、軽く中耕・土寄せを行い、薄めの液肥を施用する。
- ク ビニルや遮光資材で、強い光や降雨から植物を守る。
- ケ はずした電球を速やかに取り付け、電照やタイマー、冷蔵庫など電気設備の再点検を行う。
- コ マルチ栽培で滞水したほ場では、マルチのサイドをめくり、土壌の乾燥を図る。

8 果 樹

(1) 事前対策

- ア 防風樹や防風施設の点検・整備を行う。
- イ 幼木や若木は、倒伏しやすいので、支柱を立てて補強する。
- ウ 高接ぎ樹等は、接ぎ木部から裂けやすいので、支柱に誘引する。

- エ 病害発生懸念がある場合は、予防散布を行う。
- オ ほ場の滞水を防ぐため、事前に排水溝の整備を行う。
- カ 하우스内に雨水が流入しないように対策を行う。特に、マンゴーやハウスミカン等で事前に天井ビニルをはずす場合は、大量の水がほ場内に流れ込まないように、徹底した対策を行う。

(2) 事後対策

- ア 潮風害が予想される場合は、速やかに散水を行う。
- イ 倒伏樹は、速やかに起こし、株元に土入れして再倒伏を防ぐ。
- ウ 枝裂けや枝折れがあれば切除して、癒合剤を塗布する。
- エ 病害発生懸念がある場合は、台風通過後、速やかに薬剤散布を行う。
- オ 樹勢の低下が懸念される場合は、樹勢回復を図るため、葉面散布を行う。

9 茶

(1) 事前対策

- ア ほ場内に雨水が流入しないよう、排水溝の点検・整備を行う。
- イ 茶園に防風ネットを設置している場合には、保守・点検を行う。
- ウ 潮風害が懸念される場合には、台風通過中から散水を行うと効果がある。
- エ 幼木園では、折損や倒伏等を防ぐため、状況に応じて徒長枝の剪除を行う。
- オ 防霜ファンの支線等を外している場合には、元に戻す。
- カ 製茶工場の電気施設及びガス・重油保管施設は、電源や元栓を確認する。
また、煙突や、排気口・換気扇等の補強・整備を行うとともに、工場内を見回り、電子機器等に水分が付着しないよう対策を行う。

(2) 事後対策

- ア 潮風害が懸念される場合は、速やかに散水を行う。
- イ 生育ステージで芽が柔らかいほ場では、殺菌剤の散布を行う。
- ウ 肥料が流亡している可能性があるほ場は、再度、施肥を行う。
- エ 幼木園で、株元の土が流亡したり、茶樹が横倒しになったりしている場合には、速やかに土寄せを行い踏み固める。
また、欠株が生じた場合は、秋以降に補植を行う。

10 畜産

(1) 事前対策

- ア 畜舎の補強や、物が飛散しないよう格納、固定する。
- イ 畜舎周辺の排水溝の清掃、点検を早めに行う。
- ウ 大雨に備えて、ほ場周辺の排水溝等を点検する。

エ 給餌，搾乳，通風，換気等電力施設・機械を利用しているところは，停電が懸念されるので発電機を準備する。

オ トウモロコシ・ソルガム等刈取適期に近い作物は，事前に刈り取る。

(2) 事後対策

ア 台風通過後は，ただちに畜舎内外の排水をして消毒する。

イ 今後も生育が見込まれるトウモロコシ・ソルガム等は，ほ場の排水を行い追肥を行う。

ウ 折損・倒伏したトウモロコシ・ソルガム等は，早めに刈り取り，ソルガムは再生を早め，トウモロコシは次の作付を急ぐ。

11 園芸作物のハウス等農業施設の保護

(1) 施設野菜・施設花き・施設果樹では，ハウス等施設の補強対策を行う。

(2) ハウスは，杭の補強とハウスパンドの締め直しを行い，ビニルの破れた箇所は補修し，ハウス全体をしっかりと固定する。

また，強風が懸念される場合は，ビニルを剥ぎ取り，作物は，防風ネット等でベタ掛けを行い，保護に努める。

(3) 防風垣や防風ネットの設置と補強を行う。

(4) 果樹の防鳥・防蛾用施設（忌避灯・ネットの被覆）の補強は，張力専用線を用い，中柱の補充と周囲線の補強を事前に行う。